

平成30年度



「千葉市の未来へつなぐ議会」

小学校5、6年生の子ども議会議員が「みんなが住み続けたい千葉市にするために」をテーマに、5グループに分かれて提案や質問を行いました。

学習会で学んだり、自分たちで調べたりしたことをもとに、ファシリテータ役の中学生に支援を受けながら、提案や質問を検討しました。

当日は自分たちの提案や質問を様々な資料を活用し、発表の方法を工夫して伝えることができました。

1 開催の目的

- 市の将来を担う子どもたちが、市の現状と課題について話し合い、「市民一人一人がいきいきと幸せに暮らせるまちづくり」に向けた具体的な提案や質問を行う中で、千葉市民としての意識を高める。
- 子どもの目線に立った提案や意見を市政に生かす。

2 開催日時 平成30年7月27日(金) 9:00~12:00

3 開催場所 千葉市議会本会議場

4 出席者

(1) 子ども議会議員51人(公募による市内の小学5、6年生)
ファシリテータ役市内中学生17人

(2) 市政担当者

熊谷市長、鈴木副市長、服部副市長、山元こども未来局長、磯野教育長、神崎教育次長

(3) 市議会議員

小松崎議長、村尾副議長、石井教育未来委員長、麻生教育未来副委員長



5 内 容

(1) 学習会～開催に向けて～

5回の学習会を実施し、市長や市政を担当する職員から市の現状や取組、課題についての話を聞くとともに、自分たちで実施したアンケート調査や現地調査などの結果をもとに、提案や質問内容をまとめました。



＜熊谷市長による講話＞

「市の現状と未来について考えてみよう。」



＜テーマごとにグループで協議①＞

「まずは、市の課題を見つけよう。」



＜行政担当者からの情報収集＞

「必要な情報を得るために、行政担当者と意見交換をします。」



＜テーマごとにグループで協議②＞

「子ども議会で提案することを決めよう。」

(2) 子ども議会当日

子ども議会議員はグループごとに、自分たちの思いが伝わるように工夫しながら、提案や質問をしました。





〈グループの提案を支援〉



〈各グループの提案を真剣に聞く答弁者の皆さん〉



〈子ども議会議員を支援する中学生のファシリテータ〉



〈議会休憩中に市長と話をする子ども議会議員〉

(3) 提案・質問の内容

①「みんなが楽しめる魅力ある公園にしていこう」グループ

- ◇市には、魅力ある公園がたくさんあるので、市内の自然豊かで遊具も整備された公園を紹介します。千葉市公園MAPの作成を提案します。
- ◇世界の花や果物、野菜などを紹介できる公園をつくりたいです。
- ◇公園整備のために資金を集める取組を考えていきたいです。



- 身近にある公園について子どもの視点を生かしてどのような魅力があるかを調べ、周りの子どもたちにも興味を持ってもらえるような新しいMAPを作成し、学校や地域で共有してください。完成したMAPは市のホームページ等にのせるなど、市も一緒になって広く紹介していきます。
- 稲毛海浜公園にある三陽メディアフラワーミュージアムでは、外国の植物を含めた展示会を行うことがあります。世界の植物を各学校が分担して栽培し、花が咲いたり、実がなったりする頃に、公園を会場にした展示会・品評会を行ってみるなど、市でも協力していきます。
- 公園や緑地に関係する寄付のしくみとして、市内の緑や水辺を守り育むための「緑と水辺の基金」や、予め用意した使い方のメニューから選んで寄付する「千葉市ふるさと応援寄付金」などがあります。市としても寄付を活用した公園施設の整備には力を入れていきたいので、提案にあったような誰もが進んで募金してもらえるシステムの実現に向けて一緒に考えていきます。

②「千葉市の伝統と文化を広めていこう」グループ

- ◇「千葉常胤生誕900年を記念し、イラストを発案し、身近なものにプリントしたり、スタンプラリーをしたりして千葉市を盛り上げたいです。
- ◇千葉氏の家紋をプリントしたスイーツづくりを行い、千葉常胤の周知を図りたいです。



- 記念イラストの発案及びスタンプ作成、スタンプラリーの実施については、漫画キャラクターとのコラボレーションなど様々なかたちで取り組んできたところですが、今後も、2021年の市制100周年や2026年の千葉開府900年などの節目の年で千葉氏をPRしていくにあたり、いただいた提案を反映できるように考えていきます。
- 「スイーツ」をテーマにした取組は、身近で親しみやすい食を通じたPR方法であり、歴史や文化を楽しみながら学べるという意味で非常に大事だと考えています。今までもちはなちゃんや千葉氏にちなんだお菓子はありましたが、千葉市の歴史や文化などを題材にしたものをもっといろいろ考えられると思います。いただいた商品やPRのアイデアの実現を目指して、市内の民間の人たちと一緒に考えていきます。

③「環境のことを考えたまちにしていこう」グループ

- ◇市にある海浜公園や森林公園をもっと知ってもらうために公園MAPの作成を提案します。
- ◇市のキャラクター型のごみ箱の設置を提案します。
- ◇市一斉ごみ拾い運動を提案します。



- 身近にある公園について調べて、MAPを作成し、学校や地域で共有できるように学校新聞やポスターに載せるなど検討してください。市のホームページに掲載するなどして市も協力しながら広く紹介していきます。
- 市内の公園では、ごみを捨てずに持ち帰るようにしているため、公園にはごみ箱は設置していません。千葉公園などの大規模公園には、ボランティア活動用のごみ箱を設置していますので、ごみ箱の利用方法を記した千葉市のキャラクターの看板の設置を検討します。
- 地域の皆さんと一緒に学区でごみ拾いの活動行い、周辺に広まっていくことが望ましいです。公共の場所で清掃ボランティア活動を行う際は、市で軍手やほうき、ちりとりなどの清掃用具や、ごみ袋の支援を行います。

④「外国人観光客が、快適に過ごせるまちにしていこう」グループ

- ◇QRコードを活用して、訪日する外国人観光客に、電車の切符の買い方や箸の使い方を動画で紹介するなどして、日本の文化やルールをわかりやすく伝えることを提案します。
- ◇東京2020オリンピック・パラリンピック開催で、外国人観光客を迎えるにあたり、日本の歌や踊りを披露する「子どもボランティア」を提案します。



- 市では、店舗情報を15か国語で表示したり、日本語が分からなくても指差して会話できるシートの入ったWEBサイト「千葉おもてなしSHOPガイド」を運営しています。これにより、外国人観光客が飲食店等で食事するとき、困らないよう支援しています。提案にあった切符の買い方やお箸の使い方など、外国人が知りたいルールやマナーについても、「千葉おもてなしSHOPガイド」で動画解説できるように検討します。
- 会場周辺で道案内、観光案内をする「都市ボランティア」以外にも、外国人観光客へ日本の文化やおもてなしの心を伝える手段はあります。日本の歌や踊りの披露もすばらしいおもてなしです。皆さんにもさまざまな分野でボランティアとして活躍してもらいたいと考えます。東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、皆さんが学校や家庭でもできるおもてなしについて引き続き話し合い、ぜひ「子どもボランティア」ならではの提案をしてください。子どもも大人も、みんながおもてなしをする主役となり、千葉市全体で東京2020オリンピック・パラリンピックを盛り上げていきましょう。

⑤「地域の人とともに居心地のよい学校にしていこう」グループ

- ◇千葉名産の農産物を使って地域の人と調理したり、子ども、地域の人の特技を披露し合ったりする会の開催を提案します。
- ◇地域の人から地域の歴史や昔遊びを教えていただいたり、逆に地域の人にパソコンの操作や英語などの新しい学習を教えたりするような、互いが学び合える学校にしていきたいです。また、その後に地域の人と一緒に給食を食べる「ふれあい給食」を提案します。



- 現在多くの学校で、「学校支援ボランティア」である地域の人を招き、勉強を教えてもらったり、特設クラブの指導や生活科の学習で昔の遊びを教えてもらったりしています。逆に、今、学校で学習しているパソコンの操作や英語などを、皆さんから地域の人に教えることは、学校や子どもたちが地域に貢献していくうえで、大変意義のあることです。そのことで、学校が大人にとっても学びの場となり、さらに学校を身近に感じてくれると思います。皆さんの学校でもそのような取組を大切だと考えていると思いますので、市でもその実現に向けて呼びかけていきます。
- 本市では、提案にあった「ふれあい給食」同様の家庭・地域の人を招いた招待給食を実施しており、昨年度（29年度）は、小学校、特別支援学校の47校で実施しました。また、学校給食の意義、役割などについて理解と関心を高めるための取組の一つとして毎年1月の「全国学校給食週間」において「コッペパン」や「すいとん汁」などの昔の給食のメニューを提供している学校もあります。提案のあった「ふれあい給食」と合わせて実施できることを検討します。

6 熊谷市長の講評

私たちは、子どもや若い人たちの意見や考えもふまえて、まちづくりをしています。今日皆さんからいただいた提案には、私たちが考えることができなかった視点がたくさん含まれていました。私たちもたくさんの方を教えられるのがこの「子ども議会」です。今回、提案してもらったことをすぐには実現できないかもしれませんが、そういうことを皆さんが考えているということ、私たちはしっかりと頭に入れてまちづくりをしていきたいと思えます。

他のグループの提案を聞いてみると「なるほど」と思うこともたくさんあったと思います。また、グループ内での話し合いの中で、自分の意見とは違った意見の方が多数を占めたり、自分の意見がみんなと同じだと分かったりした経験をしてきたと思います。一人の意見も大事ですが、みんなで話し合った中でまとまった意見は非常に説得力があります。ぜひこれからも学校、家庭、地域の問題を、自分だけで解決するのではなくて、みんなで話し合い、想像力を広げていくという活動を大切にしてください。

今日までの皆さんの努力に感謝します。また皆さんを支えてくださったファシリテータ役の中学生や各学校の教職員の皆様、保護者の皆様にも感謝いたします。ありがとうございました。

7 子ども議会議員の声から

※一部を抜粋しています

市のことを良くしたいというアイデアを持っている人と一緒に考え、話し合うことができました。自分とは違う意見も知ることができました。

市政について考えたことは今までありませんでした。市長さんにお会いすることができ、千葉市の歴史や今後の発展について深く考えることができました。

子ども議会を通して行政の大変さや工夫を知ったことで、もっと協力しなければという気持ちに変わりました。子どもたちの意見が反映される市に住んでいることが誇らしいです。

小学生のサポートをする中で、改めて、多数の人に自分の考えを発表する時に気をつけることや、どのように工夫すればいいかなどについて、考えることができました。

8 提案の実現！！



<いもち作りの様子>

「千葉市の特産品を使って、地域の方と調理をする。」の提案のもと、こども企画課のワークショップを行いました。子ども議会議員や、市内小中学生の参加者により、さらに話し合いを深め、まずは千葉市の特産品を使った郷土料理の「いもち」や、千葉市の農業について、市民にPRすることとしました。「いもち」の作り方を動画でPRするために、市のホームページに掲載したり、学校にDVDを配付したりするよう計画しています。